

清掃方式の違いによる駅トイレ床面の細菌の定量・定性評価

川崎たまみ 京谷隆 潮木知良 吉江幸子

主要な旅客設備の1つである駅トイレに対して、快適な空間を提供するため清掃が日々なされています。駅トイレの清掃方法は、床構造に応じて「湿式清掃」と「乾式清掃」の2種類に大別されます。トイレのアンモニアは、床面に付着する細菌により発生すると考えられており、両清掃方法による床面の細菌分布や特徴の違いを把握することは、今後清掃により細菌を除去するにあたっては重要な知見となります。そこで本報告では、異なる清掃方法を実施する駅男子トイレ床面の細菌の定量調査と遺伝子解析を利用した定性調査(マイクロバイーム解析)を実施し、各清掃方法の特徴を把握することを試みました。2019年1月時に採取したサンプルを解析した結果、乾式清掃を実施する駅男子

トイレ床面は、細菌数が少なく位置によらず同種類の細菌が分布し、湿式清掃を実施する駅男子トイレ床面は、細菌数が多く位置による細菌の局在が見られました。清掃方法が異なると床面の細菌分布が異なることから、清掃方法に応じた細菌対策を検討する必要があることが分かりました。

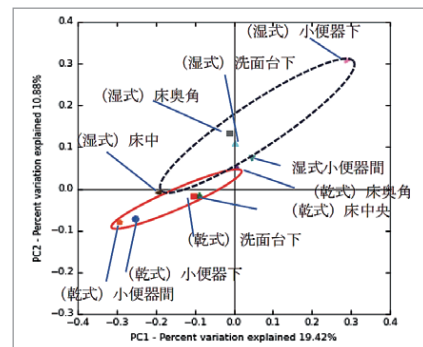


図 マイクロバイーム解析における主座標分析結果